

北九州市立大学の野球短期ボランティアのみなさんへ

無事に北九州市の故郷に着かれたことを聞き、こちらケツアルテナンゴの仲間たち一同、大きな安堵とともに、地球の反対側から私たちのために来てくれた8名に、あらためて感謝の気持ちが高まりました。

あの後、あのグラウンドには少し寂しさが残ってしまうほど、みなさんの軌跡は衝撃的でした。到着したその日から疲れも見せずに、きびきびとしたウォーミングアップが始まり、私たちの選手や観衆は度肝を抜かれたことを鮮明に覚えています。

どんな小さなことでも丁寧に指導してくれ、わかるまで何度も何度もあきらめずに付き添ってくれたことや、毎日どんどんスペイン語が上達する様子には、子供たちまで驚きっぱなしでした。帰宅後もみなさんのことを嬉しそうに家族に話した子供たちがほとんどです。

子供たちの態度に二つの変化がありました。まずは、練習について常に考えるようになり、質問をきちんとし、自分のためにチームのために野球の上達に対して積極的になりました。

二つ目は道具や設備を大切に使用する気持ちと、それらに対して感謝する姿が具現化してきています。時々それを忘れてしまう選手もいますが、そんな時でもチームメイトがフォローするようになりました。長期派遣の山名輔隊員とも実感しています。

みなさんと練習をしなかった社会人チームまでベンチの前にはバットとグラブとヘルメットがきちんと並んでいるのが、私たちのグラウンドの普通の光景に変わりつつあります。

もちろん、道具を乱雑に扱うこともなくなり、お互いが気持ちよく練習やゲームを楽しむことのルール、あるいは重要なマナーの一つになってきています。

日本で生活に比べると、いろいろ大変なことが多かったグアテマラでの滞在だったかと思いますが、地球の裏側に多くの課題を抱えたこんな小さな国が存在し、レベルはまだまだとはいえ、野球を楽しむ選手や子供たちがいることを時々思い出していただけると幸せです。

まもなく大学ではリーグ戦のシーズン開幕とうかがいました。はつらつとしたみなさんのゲームが目につかびます。勝ち負けも気になりますが、その前に、楽しみなら、考えながら、工夫しながらの私たちのお手本になったプレーの連続でありますよう、中米の高地から応援しつつ、みなさんのボランティア活動へのお礼のメッセージにしたいと思います。来年の派遣も心から楽しみにしています。みなさんのご活躍をお祈りします。

2016年4月
グアテマラ共和国
ケツアルテナンゴ県野球連盟会長
デニス・モリーナ